

2021 年度 (令和 3 年度)

学校評価自己評価表

広瀬 中学校区 校番 44 福山市立 広瀬小 学校

最終更新日 2021年(令和3年)4月2日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>学校の取り組みや成果を分かりやすく示すことで、改善のための有効な意見を聞くことができた。また、少人数小規模校のため、児童生徒個々の変容から、成果を共有すると共に、これまで以上に地域・保護者と連携した取り組みが大切である。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>元々中学校区に在住する児童生徒は「0」となり、学校に隣接する児童養護施設から通学する児童生徒や、他の校区から通学する児童生徒が増加している。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>「基礎的な知識・技能」「学びに向かう力」「社会性」「コミュニケーション能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挑戦・命と健康を大切にする心を持ち、粘り強くやり抜く子ども</li> <li>・共高・様々な考えを理解し、個性や違いを尊重し合い、共に高め合える子ども</li> <li>・創造・知識や経験を基に考え、新たな学びを創造する子ども</li> </ul> <p>小中合同行事を効果的に仕組み、異年齢交流や大人数での活動を行い、児童生徒の「やればできる」「やってよかった」と感じる体験を積み、自己肯定感を高める。</p>
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>小規模の学びの特徴を生かし、児童にこれから求められる学力や保護者の願いを掴み、保護者・地域・学校が一体となり個別最適な学びに向けて広瀬中学校区教育を展開する。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>「基礎的な知識・技能」「学びに向かう力」「社会性」「コミュニケーション能力」</p>
<p>学校教育目標</p> <p>心豊かで 主体的に考え 行動する児童の育成</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>低学年</p> <p>○学習経験を通して基礎的な知識・技能を身につけ、友達と共有し自分なりの考えを表現することができる。</p> <p>○自分がしたいことを見つけて、あきらめずに学ぼうとすることができる。</p> <p>○教室や学校の中で友達と関わり合いながら、互いに認め合い課題の改善に向けて取り組むことができる。</p> <p>○目的を理解して、相手に自分の考えを丁寧に伝えることができる。</p>
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <p>様々な家庭的な背景をもった児童や不登校傾向、大人数の集団に馴染めなかったこと等から、少人数の環境に期待を寄せて転入してきた児童が多く在籍している。そのため、学力の定着に差が見られ、自分を表現することや人間関係を築くことに課題があり、自己肯定感が低い児童が多い。</p> <p>〈授業〉</p> <p>子どもが主体的に授業を進める授業形態の取組や異年齢での「教える」「教わる」関わりを大切に取組んでいる。しかし、個々の学習進度に差が大きく、一人一人の学びの個別最適に応じた指導が必要である。</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>中学年</p> <p>○学習経験を通して基礎的な知識・技能を身につけ、仲間と共有し自分なりの考えを表現しながら、他教科の学びに生かすことができる。</p> <p>○自分の目標を見つけ、問題を仲間と協働して解決することができる。</p> <p>○学校の中での自分の役割を理解し、課題の改善に向けて仲間と共感し合って取り組み、新たな考えを創り出すことができる。</p> <p>○目的や立場を理解して、相手に自分の考えを丁寧に伝えたり、他者の考えを聞いたりすることができる。</p>
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <p>様々な家庭的な背景をもった児童や不登校傾向、大人数の集団に馴染めなかったこと等から、少人数の環境に期待を寄せて転入してきた児童が多く在籍している。そのため、学力の定着に差が見られ、自分を表現することや人間関係を築くことに課題があり、自己肯定感が低い児童が多い。</p> <p>〈授業〉</p> <p>子どもが主体的に授業を進める授業形態の取組や異年齢での「教える」「教わる」関わりを大切に取組んでいる。しかし、個々の学習進度に差が大きく、一人一人の学びの個別最適に応じた指導が必要である。</p>	<p>めざす子ども像</p> <p>高学年</p> <p>○学習経験を通して基礎的な知識・技能を着実に身につけ、仲間と共有し自分なりに、生活や他教科と関連付けて使うことができる。</p> <p>○自分の目標に向けて、問題について自分なりの解決方法をもち、仲間と協働してよりよい解決をめざして学び続ける。</p> <p>○学校や地域の中で自分の役割を理解し、自ら問いを立て仲間と協働して取り組み、新たな解決方法や考えを創り出すことができる。</p> <p>○目的や立場を理解して、相手の伝えたいことを意図に沿って質問したり、自分の考えを伝えたりすることができる。</p>
<p>現状</p> <p>〈児童生徒〉</p> <p>様々な家庭的な背景をもった児童や不登校傾向、大人数の集団に馴染めなかったこと等から、少人数の環境に期待を寄せて転入してきた児童が多く在籍している。そのため、学力の定着に差が見られ、自分を表現することや人間関係を築くことに課題があり、自己肯定感が低い児童が多い。</p> <p>〈授業〉</p> <p>子どもが主体的に授業を進める授業形態の取組や異年齢での「教える」「教わる」関わりを大切に取組んでいる。しかし、個々の学習進度に差が大きく、一人一人の学びの個別最適に応じた指導が必要である。</p>	<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>個別最適な学びをめざした授業づくり      — 教科・学年の枠を越えた学びのデザインを通して —</p> <p>内容等</p> <p>○指導の個別化・学習の個性化をデザインした単元計画      ○教科・学年の枠を越え異学年集団でのかかわりを生かした学び</p> <p>めざす授業の姿</p> <p>一人一人が疑問に思うことを課題として設定し、解決への手立てや方法を選択したり、個々の理解度に合った学び方をデザインしたりして、自分の考えを深めていく姿を引き出す授業</p>